

長崎ラグビースクール コーチング指針

I コーチに対する評価

コーチの評価は、選手の向上にどれだけ寄与できたかであり、どのレベルを指導しているかではなく、それぞれのエイジグレード（年齢区分）の大会で何回勝たせたかではない。
（アメリカ・オリンピック委員会）

※勝たせたコーチだけを評価することは、間違いである。育てたコーチがいなかったら、優秀なプレーヤーは存在しないからである。

II コーチの役割

1 動機付けを高める

※コーチは、プレーヤーの意欲を促進させるために存在する。

2 スキルを高める

※コーチは、プレーヤーの自立を助けるために働く。

3 フィットネスを高める

※コーチは、プレーヤーの目的を達成させるために支援する。

4 戦略・戦術を高める

※コーチは、プレーヤーに適切な誇りを与えることを大切にする。

※コーチは、プレーヤーがグラウンドの中でも、外でも幸せになるように導く。

III 段階別指導のあり方

段 階	指 導 の あ り 方	カテゴリー
ラグビーとの出会い	ラグビーが好きでたまらない子供たちを育てる指導を行う	1
プレーヤーの育成	ゲームの勝敗やプレーの結果でなく、何を意図してプレーしようとしたかを重視する	2・3
プレーヤーの強化	目標までの道のりや課題を明らかにし、自ら目標を達成できる能力を育てる支援を行う	2・3
<p>※どの段階においても、プレーヤーが勝つことを望むのは当然のことであるが、「勝利を目指すことの価値」と「勝利のみしか価値がない」とする考えの違いを十分に理解させ、その上で課題達成に向かう支援を行う。</p>		

カテゴリー { 1：低学年（小学1・2年） 2：中学年（小学3・4年） 3：高学年（小学5・6年） }

IV 練習についての考え方

*ゲームを最大限にイメージさせる	※ゲームで発揮したい個人やチームのパフォーマンスのイメージと現実のギャップを埋める抽出練習（ドリル）が重要である。常にゲームを最大限にイメージさせたコーチングが向上の鍵となる。
*累進（段階）的な練習を効果的に取り入れる	※運動技能・安全面を考慮し、練習の設定を簡単なことから徐々に難しくしていく。但し、「パスができないorタックルできないものは試合には出さない」などの考え方による「硬直化した段階的な思想に基づいた練習の構成」は否定されなければならない。
*ゲーム中心の指導で「プレー」させる	※人数・グラウンド等に拘らず、相手のいる簡易ゲームを積極的に導入し、常に判断を伴う「プレー」を心掛けさせる練習が求められる。
*「安全」を確保するための練習を重要視する	※タックル・コンタクトなど、危険な要素を含むプレーから身を守る動作習得のための練習を、重視しなければならない。
*「失敗」から学ばせる	※プレーヤーは、失敗の経験を積み重ねることによって成長する。ミスを責めず、失敗する練習を大切に、失敗を恐れぬ雰囲気を作り出すことはコーチの重要な役目である。
*最大限の機会と最大限の活動を与える	※「すべてのプレーヤーにすべてのスキルを」。すべてのプレーヤーにいろいろなスキルを習得するための最大限の機会と活動を提供する。全てのポジションを経験、上学年生への挑戦、合同練習など。
*簡潔な指導を心がける	※指導ではわかりやすい簡潔な言葉を使い（ファクターの提示）、プレーヤーが練習の意図やポイントが、容易にわかるようではない。